

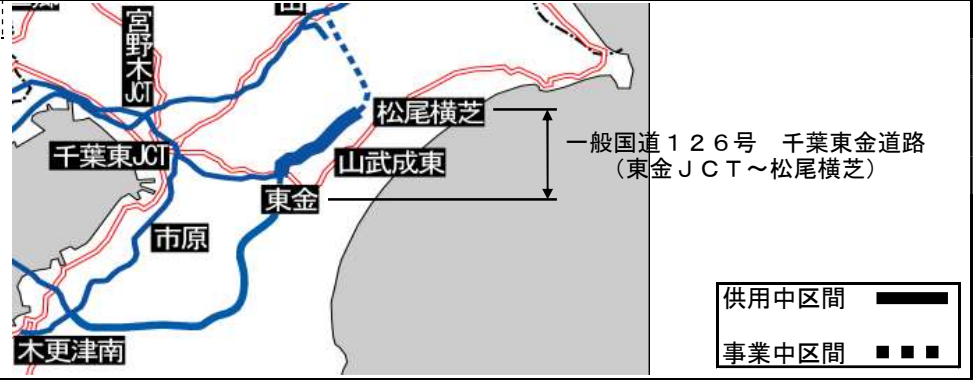
再評価結果(令和3年度事業継続箇所)

担当課：道路局 高速道路課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道126号 千葉東金道路 (東金JCT～松尾横芝)		事業区分	一般国道	事業主体	東日本高速道路(株)
起終点	白：千葉県東金市丹尾 至：千葉県山武市松尾町谷津			延長	16km	
事業概要	千葉東金道路 東金JCTから松尾横芝ICは首都圏中央連絡自動車道の一部となって高規格道路ネットワークを形成する有料道路である。					
H2年度事業化	H4年度用地着手		H5年度工事着手			
全体事業費	約1,271億円	事業進捗率(令和2年3月末時点)	87%	供用済延長	16km	
計画交通量	14,400～15,400台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.9 (残事業) 2.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 103 / 2,792億円 事業費 : 84/2,499億円 維持管理費 : 19/ 293億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 229 / 8,225億円 走行時間短縮便益 : 223 / 7,549億円 走行経費減少便益 : 3 / 573億円 交通事故減少便益 : 4 / 103億円	基準年 令和2年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C = 2.0 (交通量 -10%)		B/C = 2.5 (交通量 +10%)			
事業費変動	: B/C = 2.4 (事業費 -10%)		B/C = 2.1 (事業費 +10%)			
事業期間変動	: B/C = 2.3 (事業期間-1年)		B/C = 2.2 (事業期間+1年)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の再生(三大都市圏の環状道路を形成する) ・災害への備え(緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する) ・安全で安心できる暮らしの確保(三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる) <p style="text-align: right;">他 7項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	<p>千葉県知事の意見：一般国道126号千葉東金道路は、東京湾アクアラインと一体となって、東日本と西日本を結ぶ大動脈となる圏央道として機能するとともに、災害時には、都心部の高速道路の代替路としても極めて重要な道路である。</p> <p>特に、東金JCTから松尾横芝IC間は、成田空港と羽田空港を結ぶ高速ネットワークの一部として機能する重要な役割を担っている。</p> <p>一方で、東金JCTから松尾横芝IC間は暫定2車線であり、低速車両による速度低下、重大な事故の発生時や大規模災害時の交通機能確保などの課題があることから、安全で円滑な交通の確保や、防災力の向上を図るためにも、早期の4車線化が必要である。</p> <p>については、事業の継続が必要であり、早期に4車線化工事に着手し、一日も早い開通に向け、事業の促進を図りたい。</p>					
事業評価監視委員会の意見	対応方針(原案)のとおり了承。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	令和元年の平均交通量は10,800台/日である。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成10年4月に東金JCT～松尾横芝IC間が暫定供用。 残事業の内容は4車線化工事。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	暫定2車線供用であるが、既に4車線分の用地取得が完了している。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト削減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。